イソシアネート汚染

NPO「化学物質による大気汚染から健康を守る会」（VOC研、津谷裕子事務局長＝土浦市）が、4月に米国で開かれた国際会議「イソシアネートと健康―過去、現在、これから」に参加した成果をもとに、イソシアネートによる各地の環境汚染の実態調査や市民の健康アンケート調査に乗り出す。さらに同国際会議の報告をまとめ、イソシアネートの生産や輸入、使用を規制するよう、近く国や自治体に働き掛ける方針だ。（鈴木宏子）

イソシアネートは化学物質過敏症などを引き起こす揮発性化学物質の中で、毒性が最も高いとされ、ごく低濃度でも慢性の肺機能低下や気管支けいれん、呼吸困難、鼻詰まり、目や喉の粘膜刺激などを引き起こすといわれている。塗料や接着剤、防水シール材、アスファルトやコンクリートなど建築資材に広く使われているほか、発泡ウレタン、繊維加工品などのポリウレタン製品、ゴムタイヤや保温電気部品など日常のあらゆるところに使われ、国内では1990年代後半から生産量や輸入量が急増している。

59	声がしゃがれる、声が出にくい	□あった
60	喉がつかえる、呑み込み難い	□あった
61	目がかすむ・まぶしい・腫れる・涙や目脂が多い	□あった
62	嘔気になった、あるいは嘔吐が悪化した	□あった
63	冷や汗、寝汗、多すぎる汗	□あった
64	急に動作や反応が遅くなる	□あった
65	心臓の辺りの痛み	□あった
66	風邪のような症状が長引いた、風邪を繰り返す	□あった
67	便秘	□あった
68	点状の出血、その他異常な出血	□あった
69	失神したことや、てんかん発作	□あった
70	息をするときゼイゼイと音がする、喘鳴	□あった
71	つまずいたり、手先がぎこちない	□あった
72	喉の痛み・喉が赤い、喉が腫れた	□あった
73	外泊など外出が長いと体調がよくなった	□あった
74	背中が痛い	□あった
75	泡立った唾液や鼻水が出る	□あった
76	体重の急激な変化があった、衰弱した	□あった
77	痰が出る、痰が絡む、痰に色がある、白く泡立った痰がでる	□あった
78	しびれ感	□あった
79	尿ににごりがある	□あった
80	耳や鼻の病気（蓄膿症など）（病名があれば：	□あった
81	汗や尿がついた下着がせっけんで赤く染まる	□あった
82	尿に蛋白	□あった
83	免疫系の病気（リュウマチ、エリテマトーデス、サルコイドーシ	□あった

HPで公開予定のアンケート調査票

NPOが実態調査へ

日本から唯一、国際会議参加

事務局長の津谷裕子さん（83）によると、ドイツなど欧米各国では40年も前から健康影響に関する医学的な研究が行われ、30年前には簡易な分析器も開発され普及している。米国は2011年、一般市民の健康影響を食い止めるためイソシアネート対策行動計画を策定している。

一方、日本では、労働衛生法が作業現場での濃度を規制しているだけで、ほかに規制はない。揮発性化学物質の中でも特に分析が難しいとされ、環境がどの程度、汚染されているのか、測定すらほとんど行われていないのが実情だ。

シックハウス症候群の原因とされるトルエンやベンゼンなどは室内濃度が規制されているが、イソシアネートは一般的に室内に存在する物質ではないとされているためだ。

一方、住宅を新築しシックハウスなどの症状が出た市民が、住宅メーカーに被害を訴え、メーカーが調査した結果、イソシアネートが検出されたという報告例がVOC研に寄せられている。分析報告書は「ポリウレタンの原料などに利用されていることから、ウレタンフォームのほか、建築資材のコーティング材や塗料が発生源と考えられている」としている。

■簡易型分析器輸入へ

4月の同国際会議には欧米の政府機関や学会などが軒並み参加し、最新の研究成果が報告され、活発な議論が繰り広げられた。日本からは、VOC研が参加を働き掛けたにもかかわらず政府や学会からの参加は皆無で、NPOであるVOC研の内田義之理事（「ユビキタスクリニック龍ケ崎」医師）が唯一参加しただけだった。

会議に参加し、ドイツなどでは携帯型の簡易分析器が普及し、日本では分析が困難とされていたイソシアネートの環境汚染実態調査

が実施されていることが判明。さらにイソシアネートを扱った工場などの労働者への健康影響のほか、家庭内の工業製品から揮発するイソシアネートの健康影響などについても調査・研究が行われていることが新たに分かったという。

「外国ではイソシアネートによる健康影響をとても心配しているのに、日本では苦しんでいる人をそっちのけにしている。国内で啓発活動に取り組まなければならないと改めて感じた」と津谷事務局長は言う。

■91項目のアンケートも

VOC研では、欧米などからイソシアネートの分析器を導入し、各地で測定活動を展開し、環境汚染の実態を把握することを検討している。同会には化学物質過敏症やシックハウス症候群で悩んでいる全国各地の市民から相談が寄せられているほか、自治体の道路舗装工事や配管工事現場、民間のビルや住宅の建築現場、廃棄物処理場周辺住民などからも相談が寄せられていることから、まずは被害者らを対象に、測定を行っていく。

さらに計91項目にわたる「VOC汚染による健康影響予備調査票」を作成し、インターネットのホームページ（HP）などで全国にアンケート調査への参加を呼び掛けていく。

国際会議の報告書を翻訳して、国に対し生産、輸入、使用規制を求めていくほか、自治体などにも呼び掛け、公共事業などでイソシアネートを使用した資材や製品を使用しないよう訴えていく方針だ。